

令和4年度第三者評価 改善状況報告書

令和5年3月31日

施設名	港区立特別養護老人ホーム白金の森（短期入所）	施設所管課	保健福祉支援部 高齢者支援課
所在地	港区白金台5-20-5	指定管理者	社会福祉法人 奉優会

改善すべき指摘内容等	対応事業者 (共同事業者の場合記入)	令和5年3月までの改善状況等 (指定管理者記入欄)	令和5年4月以降の取組予定 (指定管理者記入欄)	所管課確認欄 (施設所管課記入欄)
短期入所という一定期間の滞在の中で、職員は利用者のそれまでの家族での生活状況や利用した経緯や回数を踏まえて、職員間で情報を共有して本人の介護や支援を行っている。また滞在中も職員やハンドサポーター等とのコミュニケーションの中で本人の意向を確認して、快適な生活となるように努めている。入所利用者とも日々行う活動の中で関わりが持てるようにするなど、孤立しない配慮をしている。今後もこのようなきめ細かな支援を継続することと、利用者にとってより充実した短期入所となるようにさらなる取組みに期待したい。		挨拶を第一とし、コミュニケーションを大事に会話の中からご利用者の喜びや希望を理解できるよう心がけた。 また、コミュニケーションにおける会話の中から得た情報を職員間で共有し、より良いサービスを提供できるよう取り組んだ。	引き続き、挨拶を通じてご利用者と職員が同じ喜びを分かち合えるよう取り組んでいく。 日本人と外国人の職員で、仕事に対する価値観が変わらないよう理解を深めていく。	全ての利用者と職員が気持ちよく過ごせるよう、相互理解を深めていくよう指導していく。
日々の申し送り、介護システム記録、Wordソフトでの日誌、手順内容を綴っているファイル等で、個々の利用者情報を共用しながら支援することで、業務の標準化を図っている。ただ、新卒職員や異動職員、外国人研修生(EPA)、ハンドサポーター(介護支援職員)など、多様な職員が働いており、パソコン操作や記録入力、読み込みについて、得意、不得意がある。業務の標準化を図るためにも、パソコン研修の開催や、定型文の打ち込みの簡略化を図るなど現在思考錯誤しているところである。今後も研修の開催やOJTでの取組みに期待したい。		IT機器の操作に不慣れな職員用に定型文を用意していたが、いつも同じ表現になりがちのため、自分の言葉に置き換えるよう職員に指導した。 外国人研修生については、日本語(丁寧語)による表現が難しいため、表現の文例を具体的に紹介し、参考にしよう指導した。	丁寧語の表現については、外国人研修生向けに用意したものであったが、その他職員に対しても、有用であることが分かった。 現在の文例をバージョンアップし、OJTの項目に取り入れるなど、研修の機会を通じて、より効果的に活用できるよう工夫していく。	利用者に対して、職員全員が丁寧な接遇を行うことが出来るよう、定期的な研修や個々のニーズに合わせた研修を開催するよう指導していく。
機能訓練指導員から指導を受けた介護職員が、日常生活の中でリハビリの要素を取り入れて支援している。事業内の移動においては、利用者が歩行を維持しているのであれば、介護職員が安全に歩行できるよう支援している。手引き歩行、横について歩く、または、利用者に合った歩行器を利用するなど、在宅生活で維持してきた機能が低下しないように努めている。しかし一方で、職員の経験によっては、歩行時の介助に不安がある場合もある。職員に対する個別研修を充実させるなど、さらに安全な介助をしていくための取組みに期待したい。		利用者が職員と一緒に介護機器を利用することによって、安心できる環境を提供した。これらの機器を有効に活用することで、従来の方法よりも無理なく生活の動作が行えることについて、機能訓練指導員を中心に研修を行った。	新たな介護機器として、眠りスキャンの導入を検討している。 機能訓練指導員を中心に研修・実習の機会を増やし、職員全員が連携して安全に正しく機器を利用できるよう努めていく。	利用者や職員に必要な介護機器の情報を収集するよう指導していく。 また、導入に当たっては、丁寧な研修や実習の機会を作るなど、安全に使用するための取組についても指導していく。